

お客様各位



農薬登録のご連絡の件

首記の件、下記について登録されましたのでご連絡致します。

記

適用拡大 2024年3月27日付 (1件)

(1) コルト顆粒水和剤

登録第 22797 号

作物名の追加: 食用ペンタス(アブラムシ類)

【変更後】

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ピリフルキナゾンを含む農薬の総使用回数
食用ペンタス	アブラムシ類	4000倍	100~300L/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内

* 注意事項の変更はありません。

以上

2024年3月28日

お客様各位



「商品」農薬登録のご連絡の件

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素より弊社商品の普及販売に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、下記につきまして、登録変更がございましたので、別紙の通りご連絡申し上げます。
使用者への周知徹底につきご協力賜りますようお願い申し上げます。

敬具

記

別紙「ビーム™パラタス™箱粒剤」適用拡大認可のご案内

3枚

以上

2024 年 3 月 28 日

お取引様 各位

コルテバ・ジャパン株式会社
マーケティング本部
取締役 本部長 三村 直人「ビーム™パラタス™箱粒剤」 適用拡大のご案内

拝啓 貴社ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は格別なるご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、この度、水稲用殺虫殺菌剤「ビーム™パラタス™箱粒剤」の適用拡大が別紙のとおり 2024 年 3 月 27 日付で認可となりましたのでご案内申し上げます。

今後ともご指導、ご鞭撻賜りますよう、お願い致します。

敬具

(別紙)

農薬の登録番号及び名称

登録番号： 第 24717 号

名 称： ビームパラタス箱粒剤

(スピネトラム...0.75%、トリフルメゾピリム...0.75%、トリシクラゾール...4.0%)

【登録内容】

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
稲 (箱育苗)	ウンカ類 ツマグロヨコバイ コブノメイガ イネツトムシ ニカメイチュウ いもち病	育苗箱 (30×60×3 cm、使用 土壌約 5 ℓ) 1 箱当り 50g	移植 3 日前 ～移植当日	1 回	育苗箱の上か ら均一に散布 する。
		高密度には種する場合 は 1kg/10a(育苗箱 (30×60×3cm、使用土 壌約 5L)1 箱当り 50～ 100g)			
	フタオビコヤガ	育苗箱 (30×60×3 cm、使用 土壌約 5 ℓ) 1 箱当り 50g	移植当日		
		高密度には種する場合 は 1kg/10a(育苗箱 (30×60×3cm、使用土 壌約 5L)1 箱当り 50～ 100g)			

スピネトラムを含む農薬の 総使用回数	トリフルメゾピリムを含む農 薬の総使用回数	トリシクラゾールを含む農薬の 総使用回数
3 回以内 (移植時までの処理は 1 回以 内、本田での散布は 2 回以内)	1 回	4 回以内 (育苗箱への処理は 1 回以内、 本田では 3 回以内)

7 農薬の使用上の注意事項（8に掲げる事項を除く。）

- (1) 本剤の所定量をそのまま手、又は散粒機で育苗箱中の苗の上から均一に散布すること。なお、葉に付着した薬剤は、軽く払い落とすこと。
- (2) 育苗箱の表面が乾燥していて苗を田植機にのせる際、薬剤が落下するおそれがある場合は散布後葉に付着した薬剤を払い落としした後軽く灌水すること。
- (3) 育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約 5L）1 箱当りに乾粕として 200 から 300g 程度を高密度には種する場合は、10a 当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が 1kg/10a までとなるよう、育苗箱 1 箱当りの薬量を 50 から 100g までの範囲で調整すること。
- (4) 軟弱徒長苗、老化苗などでは薬害を生じるおそれがあるので、使用をさけること。
- (5) 稲苗葉がぬれていると薬害を生じやすいので、散布直前の灌水はしないこと。
- (6) 移植後、低温が続く、苗の活着遅延が予測される場合、あるいは移植後極端な高温（30℃以上）が続くと予測される場合は、薬害を生じるおそれがあるので、使用をさけること。
- (7) 処理苗を移植する本田の整地が不均整な場合は、薬害を生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後田面が露出したりしないように注意すること。移植後は、直ちに入水し、水深 2 ～ 3 cm 程度に保ち、極端な浅水や深水は薬害の原因となるのでさけること。
- (8) 深植では薬害を生じやすいので深植にならないように注意すること。
- (9) 本剤の処理後、時に葉の黄化や葉先枯れを認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持すること。
- (10) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。